

## 2020年度 第2四半期決算・経営計画説明会 主な質疑応答

日時:2020年10月29日(木) 15:30~16:40

### 全体

Q:富士電機が期初に業績予想を開示しなかった理由は、顧客の設備投資状況が不透明であることと認識している。2Q受注実績を踏まえて、現時点でどのような状況が見えてきたのか。

A:

・引き続き不透明感はあるものの、パワー半導体の受注は堅調に推移し、ITソリューション分野は、GIGAスクール構想向けの受注増が見えている。食品流通の顧客案件延伸リスクがあるが、通期の受注高は、前年とほぼ同額の9,000億円程度を見通している。

Q:経営計画において、海外売上高は、中国は増収、それ以外は減収だが、いつまでこの傾向が続くと考えるか。

A:

・市場が回復してきた中国は、産業・自動車向けパワー半導体の需要が増加してきている。これに関連する日本国内の市場も回復の兆しが見えてきた。一方、欧米やインドでは感染者も増えており、回復には時間がかかるだろう。

### パワーエレクトロニクス インダストリー

Q:下期の計画でITソリューションが需要増とあるが、具体的な内容を教えて欲しい。

A:

・子会社の富士電機ITソリューションが同事業を担っている。国の補正予算が組まれたGIGAスクール構想向けに、端末やネットワーク整備を請け負い、2020年度受注高は400億円を計画している。

### 電子デバイス

Q:産業モジュールの受注が好調な理由は。

A:

・産業モジュールの2Q受注高は、対前年25%増。大きく牽引したのは中国の新エネ向け。  
・下期は、中国旧正月影響により4Qの落ち込みを考えると上期に対してはマイナスの見通し。

Q:自動車向けパワー半導体の2Q実績と3Q見通しは。

A:

・自動車向けパワー半導体2Q受注高は対前年36%増加。そのうち、xEV向けは対前年80%弱増加し、エンジン車向けは対前年-5%程度の減少。  
・下期も引き続き対前年で増加する見通し。自動車向けパワー半導体は売上ベースで下期対前年40%程度増加する見込み。

Q:各国でEV加速の政策が打ち出されているが、パワー半導体の中期経営計画に対しても上振れ気味に推移しているか。

A:

- ・今年是对前年でxEV向けは増加するが、エンジン車は減少する見通し。中国は2035年に100%環境車にすると発表しているが、現時点で顧客計画に反映されていない。xEV向けは中期経営計画以上の売上になっていくと考えている。

Q:電子デバイスでは中期経営計画で、5年間で1,200億円の設備投資を計画しているが、好調な事業環境を踏まえ積み増しは考えているか。

A:

- ・具体的には決めていないが、xEV向けが非常に好調であり、中期経営計画の設備投資計画を上振れする可能性が高い。

Q:昨年度発生した半導体の一過性費用は収束しているか。

A:

- ・引き続き精査中。

### **食品流通**

Q:食品流通の2Q対1Qについて、売上高の減収幅よりも営業利益の減益幅が大きい要因は。

A:

- ・2Qは需要減に伴う生産調整による生産減により損益が悪化した。

Q:食品流通で下期に対前年度増収増益と計画しているが、要因は。

A:

- ・店舗流通は店舗のカウンター関連機器や釣銭機で具体的な案件がある。自動販売機は東南アジア、例えばタイやインドネシアで昨年以上に新台の需要を見込んでいる。

### **発電プラント**

Q:上期決算において、発電プラント事業で新型コロナウイルス感染症の影響はあるか。

A:

- ・上期にロックダウンした国に対して人材を派遣できず、海外におけるサービスがスローダウンした。

以上